

山形県地域密着型サービス自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

※項目番号26 馴染みながらのサービス利用
 項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
 については、小規模多機能型居宅介護事業所のみ記入してください。

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームメルヘン
(ユニット名)	緑の園
所在地 (県・市町村名)	山形県山辺町
記入者名 (管理者)	横山 晴子
記入日	平成 19年 7月 2日

山形県地域密着型サービス自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている 施設全体の理念がある。		理念の基取り組んでいきたい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる 施設理念のほかにグループホーム毎の理念を作り、共有し日々実践している。		職員や家族にも分かりやすいように、目に付く所に明示しており、取り組んでいる。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる 地域への浸透が薄いようです。	○	家族や地域の人々の理解と協力をしてもらえよう取り組んでいく。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている スーパー等の理解があり、気軽に声かけてもらっている。	○	近隣の人達が来やすいようにグループホームを知ってもらえるよう働きかけて行く。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている 地域の防火協力員、シルバー人材からの協力を得ている。夏祭りや文化祭、バザー等を開き交流に努めている。	○	広報誌を老人クラブ・町役場など高齢者が集まる所に置いてもらい、グループホームを理解してもらおうように努めていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	近隣の小学校の運動会参加、ゴミ拾い等の地域ボランティア活動もしている。	○	地域の行事に参加する機会を作り、交流を深めて行きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価にて指摘を受けた事を話し合いし改善に取り組んでいる。	○	評価を話し改善されている。今後も前向きに取り組んで行きたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し、グループホームについての話し合いや地域交流に関しての意見を聞くことが出来た。	○	今後も定期的に行い、意見をきいてサービス向上につなげていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との連携が少ない。 行き来するまでには至っていないが、話し合いを行なうようには努めている。	○	今後は行き来する機会をつくるよう努めたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在必要としている方がいないので支援していない。	○	理解に努めみんなで話し合っていく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	個々の立場になって確認、問題があればその都度話し合い、防止に努めている。	○	個別の配慮に取り組んでいるが、さらに徹底していく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に説明を行っている。</p>	<p>○</p> <p>個別の配慮や取り組みを行っていききたい。退居時にも不安を取り除くような相談や説明を行っていく。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見を言えるような環境作りをしている。</p>	<p>○</p> <p>日々の運営に生かしていくよう努力している。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時に最近の状況等を含め話をしている。定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>○</p> <p>状況に変化が見られたとき、その都度電話で報告している。1ヶ月に1回おたよりを出している。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情申し立てを表示している。</p>	<p>苦情や不満があればその都度話し合い、納得を得られるよう努力している。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員の意見や提案を聞く機会を持っている。</p>	<p>自由に意見が出せるように提案書を反映させている。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>早・遅・日・夜・公など2週間前に作り、状況の変化により柔軟な対応をしている。</p>	<p>主任と職員が話し合いながら調整している。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるよう配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>定期的な異動はあるが少人数に治め入居者の不安を少なくしている。</p>	<p>異動時はきちんと引き継がれている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年4回程度の全体学習会を開催している。法人内外の研修を受ける機会も多く取っている。施設の中堅クラスの法人での研修も取り入れている。複命書の回覧も行っている。	○ これからも法人、内外の勉強会等を多く取り入れていき、レベルアップを目指していく。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修者を多く取り入れ他施設にも研修に行き、良い所を取り入れている。	同業者との交流を積極的に行っている。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ケアや夜勤での悩み等をアンケートを取り入れ、話し合っている。	ストレスを軽減する工夫に取り組むよう努めている。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤務状況を把握して、意欲を持って働き続ける為の努力をしている。	個人の能力開発目標を決め、向上心を目指すようにしている。年2回の人事考課を実施している。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	何度も事前訪問・面談をし、話を良く聞き生活歴等も聞いておく。	面談を多くし本人の不安を取り除くようにしていく。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族が不安な事や求めている事を受け止める努力をしている。	面談を多くし利用者と家族の不安を取り除かれる様努力する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスも受けられる事や受けられないサービスも説明している。	○	必要に応じて他のサービス利用の調整を行って行きたい。
26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	回想法などで話を聞き出し、いろんなことを学んでいる。		生活歴を生かし、安心安定した生活を送れるように支援している。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	報告・連絡・相談を密にしている。	○	カンファレンスに家族の参加を促していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	月1回の自筆のおたよりを出したり、家族との電話で声を聞いたりして家族と疎遠にならないように支援している。	○	家族からのおたよりも促していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所を把握し、関係が途切れないように会話を多くしている。	○	生活歴を職員一人ひとりが把握するよう努めている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人ひとりの性格を把握し、楽しく暮らせるようしている。	○	本人が出来る事を見極め、仲良く暮らし楽しい生活を送れるよう努めていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後は関わりが少なくなっている。	○	退居した利用者の家族との連絡を増やしていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前調査や回想法等によって本人の意向を把握している。	○	回想法を多く取り入れ思いや願いを引き出し、自分の時間を大切にし、自分の趣味など継続して生活できる様支援する。生活歴を大切にし、人格を尊重できるケアを目指す。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から情報を集め、所持品から生活歴を把握している。		家族からの情報を多く取り入れている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人がやりたい事や出来る事を見極め、個別に対応している。	○	個別に関わる時間を増やし、一人ひとりが自己主張が出来、生き生きとした姿が見られるようにしたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居前の生活歴を活用したり、「本人の気持ちシート」等を使いケアプランに生かしている。	○	ケアカンファレンスの回数を多くし、より良い暮らしが出来るよう情報を得る。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化に応じて介護計画を立てているが、家族からの意見や要望等の取入れが少ない。	○	本人や家族からの要望を取り入れる取り組みをしていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者一人ひとりの個別記録には、重要な点が具体的に細かく記入している。入居者一人ひとりの気づきシートをスタッフ全員で個別に記録し、情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている。	○	日々の気づき記録の他に別に記録し状況を職員間で共有し、3ヵ月毎のプラン作りや認定時にも使用し、日常的に活用する事でよりの確な介護計画を行っていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、公民館、図書館、その他公共的施設などの協力を得ながら支援している	スーパーや警察、消防の協力を得ている。夏祭りや敬老会、文化祭・避難訓練などを行っている。	○	ボランティア等への働きかけを要請していく。近隣の小学校や老人クラブの行事に参加し、交流の機会を多く作り深めていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や生活支援上の必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、介護保険外も含めて他のサービスを利用するための支援をしている	隣接するケアマネジャーや相談員から情報を得ようとしている。	○	今後検討していきたいと思う。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在は連携が取れていない	○	今後検討して行く。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居状況・身体状況を家族に伝え、受診内容については、家族から報告をもらっている。	○	主治医は本人か家族が決めている。今後も家族の希望を大切に、かかりつけ医と良い関係を築きながら、適切な医療が受けられるよう努めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	ホームと同じ敷地内にクリニックや老人保健施設があり、また地域の歯科医院が協力医になっている為、すぐ受診出来る体制が出来ている。	○	常に相談できる医師がいる為、夜間も対応できている。月一回は受診している。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師が各ユニットを巡回し、早期対策を取っている。		看護師が、毎月1回、一人ひとりの健康チェックリストを作り、健康管理をしている。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	主任が医療機関や家族に連絡を取り、早期退院にむけた連携を図るようにしている。	○	入院後治療方針が出たら、必ず見舞いに行き様子を聞き、その後も何度か訪問している。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の時の事を家族の意向を確認し、話し合っている。	○	対応方針を検討していきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在は取り組んでいないが、今後考えていきたい。	○	連携体制作りを検討していきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	話し合いの場を家族とケア関係で作り、情報交換や話し合いを行っている。	○	移った場合も何回か訪問し、情報を提供している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりを尊重しながらさりげない声がけに努め、トイレ誘導にも気を配っている。面会簿は廃止し、面会箱を設え、個人情報の取り扱いには気を使っている。	○ 職員の守秘義務の徹底をさらに強めて再教育行う。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員は出来るだけ手を出さずに見守るようにしており、「どちらがいいですか?」という選択肢を取り入れながら入居者の自己決定を尊重するようにしている。	○ 意見や希望が出にくい時は、入居者と一緒に過ごす時間を多く取る事により何を希望されているのかを話し合う場と雰囲気・時間を取っていききたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆったりとした態度で接するようにしている。毎日の会話の中から、その人らしい場面を引き出せるよう雰囲気作りをしている。得意な事は積極的に行ってもらい、自信をつけられるようにしている。	○ 利用者のペースに合わせた暮らし(食事・入浴・創作活動など)、その人らしい暮らしとは何かを話し合い支援していく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	外出時には、その人らしい化粧・小物使い等おしゃれには気を使っている。整容の乱れは、職員がさりげなくカバーしている。	○ なじみの床屋や美容室を利用している。これからも本人が望むおしゃれを、家族と連絡をとりながら行っていききたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と一緒に献立を考え、買い出し、一緒に作り・食べ、後片付けも一緒に行っている。	○ 週4回季節の旬の物を買出し、入居者の状況にあった調理・盛り付けを行っており、食器や箸等も自分の使い慣れた物を使っている。朝食等も希望献立を考えていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人ひとりの嗜好品を把握し、提供している。飲み物も、テーブルにコーヒー・お茶・冷麦茶など自由に飲めるように準備している。	○ 冷蔵庫などいつも誰でも自由に利用できるようになっている。夜間の水分補給も希望の物を出している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	それぞれの状態を観察し排泄パターンを把握し、一人ひとりを尊重しさりげない声かけを行っている。	○	日中は布パンツ、夜間のみ紙パンツに変えトイレ誘導も日中に限らず夜間も行っている。トイレ誘導することで失禁の回数が減っている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎朝バイタルを確認し体調を確認した上で、一人ずつゆっくり入浴し、週3回以上入浴している。	○	一番風呂、午前・午後、寝る前、毎日等、それぞれの希望に合わせて入浴を提供している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中活動的に過ごす様にしている。明るくて眠れない方は足灯を付けたり、不安のある方にはスタッフの所で寝たりさせている。	○	入居者の状況に対して、休憩したり、常に無理はせず配慮している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食器洗い等入居者同士が役割を決め、掃除・洗濯等自然な流れで入居者主体で行っている。それぞれ出来る事を見極めながらその人に出来る事を行っている。	○	今までやりたくなかったり、出来ない事が出来たりしていた方も、みんながやっているうちに自分もやってみようとする様子が見られる様になった。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る方は、自分でお金を持って好きな物を買えるようにしている。	○	希望のある方は随時、買い物に行っている。それ以外の方も買い物に行く機会を多く設け週2、3回出かけており、好きな物を選んで買っている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物やドライブだけでなく、屋上や施設の周りを散歩したり、近くの小学校の運動場に行ったりしている。外食や温泉に行く回数も増えている。	○	外出を多くし、外の暑さ、寒さを肌で感じて季節感を味わってもらえる様外出を多く取り入れている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	正月とお盆は家族と共に過ごしてもらえるよう声かけし、ほとんどの方がいろんな所へ行かされている。	○	家族と共に出かけられる機会を多くする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	食堂に公衆電話を設置している。手紙もいつでも出せる様ポストも作ってある。家族の声が聞きたい方は自分で電話をしている。	○	月1回のおたよりを自筆で書き送っている。自分から電話をかけることが少ないので、家族との交流を増やしていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつも面会に来ている方とみんな一緒に話をしたり、自発的にお茶を出してくれたりしている。	○	誰に面会に来ても、入居者から気軽に声をかけるので、会話も多く楽しんでいる
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる		「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を廊下に貼り、職員が目を通せるようにしている。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる	鍵が気になり、常に入り口の鍵を確認している。事務所の入り口と共用している為、出入りが多く落ち着かなく、常に気になっている。	○	スタッフの出入り口を別にし、外部からのみとし、チャイムの音を減らした所、落ち着きが見られ、スタッフが多いときは空けておく時間が多くなった。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は入居者から目を離さない様に必ずスタッフが傍にいる 夜間も2回の巡視と30分おきの巡回を行なっている。		常に入居者と一緒に過ごしており、安全確保できる場所にいる。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の状況に応じて管理し、安全を確保している。		状況を把握し個別に対応している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故を未然に防ぐ為に職員の勉強会等も行っている。事故発生時は状況を職員に報告徹底している。		ヒヤリハットを分析し対策も検討・話し合い、事故防止に努めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルはあるが、職員全員が完全に出来るとは言えない。止血・喉のつまり、骨折等の対処は出来るが特に発作等は難しい。	○	定期的な勉強会や外部からの指導もお願いし行っている。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に非難訓練を行なっている。 日頃より、地域の協力を得られるよう働きかけている。		地域の方や近隣の施設と合同でも訓練を行っている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	状況に応じ家族に説明している。	○	納得が得られるまで話し合っていく。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタル測定、様子観察をしており、体調不良時は早期に受診行に対処している。記録にも状況を細かく記入している。	○	軽い症状でも出来るだけ早めに受診するようにし、早期発見し症状の重度化を防ぐ。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時、医師より処方された薬については説明を受けている。目的や副作用についても個々の薬を説明書等で再確認している。		薬の変更になった時は、随時申し送りノートに書き、周知徹底している。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	薬に頼っている事が多い。	○	薬以外で自然排便を促す様、対応策に取り組んでいく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自分で出来る方は随時声がけしている。出来ない方にも声がけし、スタッフと一緒にしている。		出来る方の確認も行っている。一日3回行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算された食材を使用し、入居者一人ひとりの摂取カロリーや水分補給量、栄養バランスを一日通じておおよそ把握している。	希望献立では、食べる量を見極め栄養過剰にならないようにする。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルがある。年2回のインフルエンザの予防接種も行っている。職員も全員受けている。	○ ノロウイルスや疥癬等の予防対策として毎日じ亜塩素酸を使い予防している。また、感染症の流行の情報も得る。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日の布巾やまな板、包丁の消毒を夕食後毎日行っている。	○ 一ヶ月に一回、冷蔵庫の食品点検。毎日消毒の確認チェックを付けていて、衛生管理の徹底に努めている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	柔らかい雰囲気を出す為に玄関先に花を植えたり、玄関にはいつも生花をいつも飾っている。	○ 季節の花々を飾っている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂にはソファ、廊下には長椅子等で好きな所でゆっくり過ごせるような空間を作っている。	○ 民謡や歌が好きなので、ゆっくり過ごせる場を作っている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の気の合った同士で音楽を聴いたり、雑誌を見たりして過ごされる。	○ 自分の居室より、みんなで一緒に過ごされているのもう少し、居心地良い方法を見つける。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時は新品の物が多いが、声かけにより生活暦が残っている様な物を持ってきていただいている。	○	思い出の品物や使い慣れた物等、声かけを多くし持ってきて頂く。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定期的に居室の巡視をし、換気や温度管理を適切に行っている。	○	温度管理の徹底
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全居室でバリアフリーになっている。廊下やトイレも広く、ゆったりとした生活が送れている。	○	個別の設備や道具の工夫を考える。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個人個人ののれんや、自分で作った花を表札の所につけ、居室が分かるようにしている。		風呂やトイレ等も分かりやすく目印をしている。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	屋上での茶会や散歩、建物の側に畑も作っており、草刈等も行いながら収穫を楽しみにしている。	○	食堂から常に見られる。ベランダにも花などを植えてみる。

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
		○	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

小学校が隣接し、常にいる食堂から運動場で遊ぶ子供達を見て楽しく過ごされ、とても環境が良い所です。施設の南側には畑があり、季節毎の野菜を植え育て、水をやったり草取りをして収穫を楽しみにされています。収穫された野菜を他のユニットに配ったり、取ってきた物をすぐに料理されたり、入居者同士の交流を深め生きがい作りをしている。回想法にも力を入れ毎日取り入れ昔の事を思い出され、いろいろな事を話され会話が弾まれています。ユニットには料理の達人が多く、自分から手伝わぬ職員が教えてもらう場面も多くあり、生かせる場作りをしています。外出も季節感を感じてもらえるよう多く持ち、買い物・外食・温泉・ドライブと色々な所出かけられています。家族の面会も多く、イベントの祭りには多くの方が参加されます。これからも本人の気持ちを大切に、その人らしい生活が楽しく送れます様に頑張っております。